

■ 特集 ■

共生科学再考

——ウィズコロナ時代の共生科学とは——

2020 年は、いま生きている大半の人々にとって経験したことのない「パンデミック」に覆われた 1 年となった。Covid-19 が蔓延する世界、「コロナ禍」と呼ばれるこの状況は長期化が予想される。どの場面においても「共生」が迫られるなか、「共生科学」の本領発揮のときでもある。そこで「ウィズコロナ時代の共生科学」を改めて考えるため、本特集を企画した。

星槎大学では星槎高校とも協力し、コロナ禍に生じたどんな課題に対し、何を考え、どんなことを実践したのか。前半では、それぞれの立場や専門的視点からの議論と実践を、後半では具体的な対応・活動をコラムとして寄稿していただいた。禍を転じて福に仕向けるための学問のヒントとして、また記録として、読んでほしい力強い報告ばかりである。



長野県小谷村と那覇キャンパスをつないだ高大連携による「オンラインフィールドワーク～里山の暮らしから学ぶ」(写真・星槎国際高校那覇キャンパス提供)